

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—
教育委員会や学校園の情報をお知らせします。



学校支援ボランティアによる読み聞かせ

学校支援地域本部事業 地域の皆さんの力を学校運営に

教育委員会では「学校・家庭・地域」が一体となつて地域ぐるみで子どもを育て、学校教育の一層の充実を図ることを目的として、学校支援地域本部事業を行っています。

平成20年度から始まった学校支援地域本部事業では、学習に関する補助や登下校の安全パトロール、花壇の整備など、多くの市民の方に学校運営などのご協力をいただいています。

学校支援ボランティアの活動内容

- 学習支援
- 授業の補助、実習の補助
- 環境整備
- 花壇の植え込みや手入れ、図書室の整備や貸し出し、読み聞かせ
- 安全パトロール
- 登下校時の通学路安全指導、校内見守り
- 学校行事の支援
- 運動会などの準備補助

- 学校からの要請でこのような学習や環境整備などを手伝っていただけるボランティアを募集しています。
- ▼問合せ 生涯学習課 (☎22-5996)
- ①学校支援ボランティアバンクへの登録をお願いします。
 - ②お住まいの地域以外の学校への支援活動をお願いすることがあります。
 - ③無償ボランティア(謝金・旅費なし)を原則とします。
 - ④活動時の保険として、ボランティア保険に加入させていただきます。
 - ⑤本事業は、学校の要請に基づいて進められるため、必ずしも依頼があるとは限りません。
- 内容・登録など詳細については、生涯学習課までご連絡ください。

心のスケッチ 67 人権教育室コラム 世界に目を向けて

今年度も残り1カ月、締めくくりの時期となりました。この1年間を振り返ると、さまざまな出会いがありました。先日、外国籍の方との交流会に参加しました。日本の文化である餅つきを通して、交流を深めました。中国、ペルー、ブラジル、フィリピン、ベトナム籍の方、約50人が参加されていました。あちこちからさまざまな言語の会話が聞こえ、インターナショナルな雰囲気の中、和やかな楽しい時間が過ぎていきました。途中、1年ほど前にフィリピンから日本へ来られた青年が、まだ慣れない日本語でゆっくりと話し出しました。「フィリピンに大きな台風が来ました。私が住んでいたまちも大きな被害を受けました。そして、たくさんの人が亡くなりました」その発言をきっかけに、街頭での募金活動をしたり、コンサートを開いて台風支援のカンパをしたりしようということになり、温かい支援の輪が広がりました。青年は続けました。「日本語は、とっても難しい。でも、がんばって日本語を覚えたい。言葉が通じ合ったら、とても嬉しい気持ちになる。今日はみんなに出会えてとても嬉しい。これまで以上に日本が好きになった」

「言葉が通じ合ったら、とても嬉しい」

この言葉が強く心に残りました。と同時に、外国籍の方にとって、日本で生活するには言語の習得やお互いの国の文化の違いを理解することが大きな課題となっていることに改めて気づきました。日本語で生活し、日本文化の中で生まれ育った私には自分の事として理解できていなかったのです。

交流会に参加してさまざまな国の異なる文化を持つ人々と共に暮らしていくために大切にしなければならぬことを深く考えるようになりました。国籍や民族の違い、言葉や文化の違いを認め合い、誰もが住みよいまちづくりをみんなが進めていきたいですね。(人権教育室)

あぐいこらむ 67 自然の恵みを人から人へ

農工商連携が西脇市を元気に!

約7年間待ちのコロッケがあると先月ご紹介しました。その材料のジャガイモはすべて無農薬で栽培されたレッドアンデスという希少品種、牛肉は厳選された神戸ビーフをサイコロ状にカットして使用するというこだわりの逸品で、生産量が限られることから、入手困難になりました。実はこのコロッケの原材料



の多くは西脇市で生産されています。販売店は、主に神戸ビーフを取り扱う老舗精肉店で、以前から黒田庄和牛も多く出荷しておりコロッケにも使用しています。また、ジャガイモは黒田庄和牛の取引がきっかけで、黒田庄和牛生産者のご家族を中心に西脇市で生産されるようになりました。このように農業者と商工業

者が連携して商品開発などに取り組むことを「農工商連携」と言います。「農工商連携」は、農業者にとっては農産物の安定的な販路の確保、商工業者にとつては商品の高付加価値化など、お互いにメリットが多いと言われています。このような取り組みが市内で増えれば、農業振興だけでなく地域経済の活性化につながるのではないのでしょうか。市内でも市内産ジャガイモを使用しコロッケを販売している精肉店があります。市内のお店で市内産農産物を使った、メイドイン西脇の超人気商品が誕生する日も近いかもしれません。

西脇市消費生活センター ☎22-3111(生活環境課内) No.102 賃貸住宅を退去するときのトラブル

「賃貸アパートを退去したら、クロスや畳の張り替え、ハウスクリーニングの名目で、高額な原状回復費用を請求され、敷金が返金されない」という相談が寄せられます。

■「原状回復義務」と「敷金」
原状回復義務とは、部屋を入居時の状態に戻すことではなく、「借主の故意や過失で住宅を汚損した場合に負う義務」を言います。通常の使用で生じる消耗は、借主が負担する必要はありません。入居時に預けた敷金は、家賃の滞納や住宅に損害があったとき、これから精算されます。原状回復費用の負担で、納得できないときは、請求内容の明細をもらい、貸主と十分に話し合しましょう。

このようなトラブルを避けるために、契約内容や入居前には部屋の状況を十分に確認し、退去時に備えて写真を撮っておきましょう。原状回復については、国土交通省が定める「原状回復をめぐるトラブルとガイドライン」を参考にしてください。



おもてなしの様子

このまちに生まれたことを誇れる「西脇市」をともし創っていきましょう。市民の皆さんの心からの「おもてなし」に感謝!

市長からの手紙 02 西脇を元気に!!



西脇市長 片山象二

「おもてなし」
昨年の流行語の一つです。

2月9日、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」本編終了後の「官兵衛紀行」で、「もう一つの伝説の地」として西脇市が紹介されました。11日の建国記念日には、テレビをご覧になった多くの方が荘厳寺など官兵衛ゆかりの地に、地元ボランティアの皆さんには、無料でぜんざいを振る舞ったり、ゆかりの地を案内したりするなど観光客への対応をしていただきました。



子どもたちも駅伝コースを清掃

また、16日の西脇多可新人高校駅伝大会でも、スタート地点やコース上で、自治会などが豚汁やコーヒード「おもてなし」。大会前には、市内3高校の生徒とライオンズクラブによるフラワーポットの設置、西脇青年会議所の呼びかけでコース清掃が行われるなど、全国からの選手団や関係者を気持ちよく迎えることができました。